

地区の守り神「地水神さま」などについて

田中野田公会堂の入口のところにつぎのような三つの石塔がある。

- ①地水二神と三十番神
- ② 南無妙法蓮華經(題目石)
- ③ 大覚大僧正

嘉永の始めに建立されたことが、石塔に刻まれているので、今から140年ほど前にこの土地の住民が祭ったものと思われる。

私が子供の頃にはお年寄りの人が毎日お参りしていた。

ところで、前述の石塔に刻まれている大覚大僧正は今から600年ほど前に備前地方に來られ、日蓮法華宗を布教された方である。岡山市で有名な蓮昌寺もこの方の創建と言われている。田中野田に古くからおられる家はほとんど日蓮宗の信者で、題目石と大覚大僧正を祭られたのはこのためである。

地水二神とは、地神さま、水神さまのことである。農地と水は稲作農業にとって欠くことのできないものであるが、五穀の豊穰を願って私たちの祖先は大地を守る神さま、水を司る神さまをお祭りしているのである。

三十番神は1ヵ月30日間毎日交替して、法華經とその信者を守護する稻荷大明神など30柱の守護神のことである。

この石塔も公会堂と同じく区画整理のために移転しなければならなくなっている。

この石塔は前述のように日蓮宗の信者のためにあるように思われるかもしれない。しかし、昔の人は一般に宇宙やこの地球は神や佛が支配しているものと思い、神や佛をおそれ、そのお陰をうけたいと熱心に信仰していたのである。科学の進歩した現在、無条件に理由もなく神や佛を信じられないかも知れないが、いくら人知が進歩しても不老長寿の薬は作られないのだ。この世に生まれそして老い、必ず死んでゆく弱い人間が強く生きていくための力を、神さまにかしてもらい助けてもらおうと思うのは当然ではなかろうか。忘れかけている地水神さまなどを昔の人たちと同じようにお祭りし、この地区の平和と安全をお祈りするようにしたいものである。